

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2009年11月20日

第 319 号

新しい実践の心を啓く

理事長 稲松 義人

「その後、主はほかに72人を任命し、御自分が行くつもりの方のすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。そして、彼らに言われた。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。』」(ルカによる福音書10章1〜2節)

この聖書の箇所は、私が今年、マルカ10に赴任するにあたって、繰り返し読んだところです。聖書によるとイエス・キリストは、先に12人の弟子を選んでいます。その後、イエスご自身が訪ねたいと思っている町や村に派遣するために、他に72人を任命したというのです。そしてさらに、収穫は多いが「働き手が少ない」から、さらに働き手を送ってくださるように願いなさいと言っています。

施設の中だけに福祉の実践の場があるのではない。そのことを思いつつ、三方原スクエアを離れて、私なりに新しい実践のあり方を模索しています。昔から現場の職員から「職員が少くない」という思いを聞いてきました。しなければならぬことは多いのに「働き手が少ない」というのです。職員の

急な欠勤や緊急に利用者を受け入れなければならぬときに、職員配置にゆとりがないのは辛いことです。また、利用者一人ひとりのニーズを考慮して個別に対応したり、職員の研修や付随して発生する雑務をこなしたりするため時間もなかなか十分に取れません。私もかつては、現場の職員として利用者の支援に就いていましたのでそのあたりの心情はよく理解できます。しかし、経済的な制限もあり、思うように職員を増やすことはできません。施設の管理者になってみると、そこがいつも悩みの種です。しかし、実際には職員数を増やすことができても、増えたら増えただけ新たなニーズに 대응しようとするため、結局現場の人たちはいつの時代も「働き手が少ない」と感じてきたのではないかと思います。

三方原スクエアでは新しい発想に立った施設を造り、新しい体制での支援を始めました。少人数での生活ができる居住棟と、日中集まって活動する場所をはっきりと分けました。そして、日中集まるための建物には、月曜日から金曜日まで通って活動するスペースと、空いた時間に様々な人たちが自由に交流できるスペースを設けました。しかし、職員には実際に交流のための具体的なプログラムを企画したり準備したりするための余力はありません。そんな実情と、どなたかがボランティアで

交流のための試みをはじめただけると嬉しいという話を、三方原スクエアに見学に来られる方たちに話す機会があるたびにしています。

三方原スクエアでの支援がはじまって1年になろうとする先月、そんなアイデアを受け止めた聖隷クリストファー大学・大学院の方たちから、毎月1度、日曜日の午後に、三方原スクエアのオープンスペースを使って、施設に入所する人たち、地域の人たちが交流できるようなコーヒーショップをしてみたいという申し出がありました。

大学ではこの試みを施設入所者と職員のニーズ調査と位置づけ、いわゆるフィールドワークによる社会福祉研究の一つということのようです。

「コーヒーショップ『啓』(けい)」の名称は、研究代表者である社会福祉学部の小松啓先生のお名前からつけられたとのことですが、この「啓」という字には、凝り固まった考え方を「ひらく」と言う意味があり、三方原スクエアでの実践のめざすところにぴたりだと思っています。

施設に入所する人たちの生活を施設の中で直接支援するのは、施設職員の仕事ですが、施設も「地域」の一部として、施設中心の福祉を、新しい発想に啓いてくれるのは、施設の外から助けてくださる人たちなのではないかと思いました。こんなところにコミュニティ再生の可能性を感じます。

みんなの笑顔 いっぱい 小羊学園 ふれあい運動会

初めての合同運動会

10月9日（金）浜北区のグリーンアリーナで浜松地区にある生活介護事業所合同のふれあい運動会が初めて行われました。参加したのは、小羊デイケアホーム（以下デイケアホーム）、マルカート、オリーブの樹、三方原スクエア成人部（以下スクエア）のみなさん。100人を超える利用者に、職員、保護者を加え、総勢150名の方が参加しました。

これまで、各施設や地区での運動会はありませんでしたが、地域を跨いで法人で行ったことはありませんでした。同じ法人内にありながら、日常的には繋がり少ない生活介護事業所が、楽しく交流できることを願って理事長自らが立案しました。計画が立ってから、実行委員会が3回ほど開かれ、競技内容や役割等を議論していきました。また、各事業所も、活動の中で応援旗の作成や独自のTシャツを作成して、運動会に向けて準備を進め、みんなこの日を心待ちにしていました。

午前の部

開会式の後、午前中には、徒競争・パン食い競争が行われました。

徒競争は、参加者の皆さんの身体状態によって、30m走と車椅子・歩行器の部に別れて実施しました。集合の放送が流れ、みんなが召集場所に集まり、ドキドキしながらスタートラインに立って、号砲を待ちわびます。スタートは男性の部、女性の部、車椅子・歩行器の部の順です。

いよいよ徒競争の始まりです。ピストルが鳴ると、ゴールテープに向かって懸命に走る人、のんきにゆっくりと走る人と利用者によってさまざまです。各施設の応援席からも、仲間が走っている姿を励まそうと、旗を振ったり、大きな声で応援していました。一番を目指して走った人は、ゴールテープを切った瞬間、「やったー」と雄叫びを上げ、最大限の喜びを表していました。逆に「競争など我関せず」とばかりに、のんびりとゴールした人も、表彰シールを貼ってもらい、自分が頑張った証

しを見てもらいたくて職員にアピールしていました。
普段、体力づくりや散歩で身体を動かす機会はあっても、真剣に走ることは少ないので、全力で走りきった後は充実感でいっぱいだったことでしょう。

次はみんな楽しみにしていたパン喰い競争です。スタート地点から20m先に吊るされたパンを目指して走り、口でくわえてゴールに向かいます。今回用意したパンはオリーブの樹が活動の中で制作・販売しているパンを使いました。



悪戦苦闘しながらも、手を使わずに頑張りました

物干し竿にはカレーパン・メロンパン・クリームパンなどが吊るされ、自分の好みのパンに向かってまっしぐらに走ります。ヒモに吊るされたアンバランズな状態のパンをくわえることは、

とっても難しかったようで悪戦苦闘の連続でした。諦めて手で取ってしまった人もいましたが、自分で取ったパンを誇らしげに見せてくれて、競技後は嬉しそうに食べていました。

利用者の競技後は、職員・保護者のオープン参加が行われました。言うまでもなく、物干し竿の揺れ方は激しく、口をパクパクさせて苦労している職員を見て、利用者が爆笑しているシーンもありました。

ランチタイム

午前中の競技が終了し、午後の競技に向けて腹ごしらえです。体育館周辺の芝生広場や中庭にシートを敷いてランチが始まりました。外は台風一過の秋晴れ。爽やかな秋風を感じながら、みんなで食べるお弁当の味は別格。



芝生の上で、ランチタイム

お昼休みには、魅惑的倶楽部（エキゾチッククラブ）のみなさんによる、歌とダンスのショーが開かれ、大いに盛り上がりました。

午後の部



お腹も満腹になり、楽しいショーも終わり、さあここからは、各事業所の名誉と誇りをかけた、「絶対に負けない戦い」のはじまりです。午後の競技は全て得点制で最後に総合優勝チームが決定します。競技種目は、玉転がしリレー・綱引き・男女混合リレーの3種目で競い合いました。



思ったように転がりません！

第1戦は玉転がし。1ゲーム目はスクエア対デイケアホームの勝負。序盤は抜きつ抜かれつの攻防でしたが、終盤自力の差が出て、デイケアホームが勝利しました。

2ゲーム目はマルカート対オリーブの樹の勝負。「オリーブの樹が強いのでは？」との下馬評を覆し、マルカートが、接戦をモノにして勝利を手中に収めました。この時点で、デイケアホーム・マルカートが10点獲得し、半歩リードです。

第2戦目は綱引きです。意地と力と団結力が勝負の鍵となる種目です。トーナメント方式で行われました。

スクエアは参加人数が多いので、施設内で予選を行いました。そして1回戦がスタート。まずは、スクエア対オリーブの樹の対戦。この勝負も下馬評ではオリーブの樹有利と思われるでしたが、いざフタを開けてみるとスクエアが勝利し、決勝に進出です。もう一つの対戦は、デイケアホーム対マルカート。号砲の合図とともに、お互い引っ張り合いの力比べでしたが、あっさりマルカートが勝利し、決勝進出決定です。1回戦で残念ながら負けてしまったオリーブの樹とデイケアホー



綱を引く手に力が入ります

ムは3位決定戦にまわり、デイケアホームが勝利しました。

いよいよ綱引きの王者決定戦です。スクエア対マルカートの戦いを前に、応援旗も大きく振られています。号砲が鳴ると、綱を引っ張りあい一歩も譲らない展開となりました。20秒経ち少しずつマルカート陣営に綱が動きだし、終わりを告げる号砲が2発鳴らされ、決着の時を迎えました。結果は、1位マルカート、2位スクエアです。

綱引きを終えた時点での、順位は、1位マルカート、2位デイケアホーム、3位スクエア、4位オリーブの樹となり、総合優勝の行方は最終競技にかかっています。

最終競技は、男女混合リレーです。各事業所から、男性・女性利用者、男性・女性職員の精鋭が選抜され、プライドをかけた戦いの始まりです。

スタートラインに立つ先頭ランナーの目線はまっすぐ前を向き、緊張感がみなぎっています。スタートの合図とともに、各選手が勢いよく走り出しました。この中で、一気に抜け出したのが、デイケアホーム。バトンタッチ後も、その差をグングンと広げていきます。中盤、オリーブの樹が健闘を見せて、追い詰めますが序盤のリードが大きく、そのままゴールテープを切ってデイケアホームが勝利しました。

全ての競技が終了し、デイケアホームとマルカートが同点1位。スクエアとオリーブの樹が同点3位となりました。優勝・3位決定戦を行うこととなり、各事業所の代表でじゃんけん勝負となりました。優勝決定戦でも3位決定戦でも、3回連続あいこで4回目によく勝負がつかまりました。

じゃんけん勝負の結果、総合優勝は、デイケアホーム、準優勝はマルカート、3位はスクエア、4位はオリーブの樹となりました。引き続き行われた表彰式では、各事業所の代表選手が、賞状と記念品を授与され、嬉しそうにみんなにお披露目していました。

立案から3ヶ月という短い期間で企画を立て、どんな運動会になるのか予測がつかない中での実施でしたが、競技を楽しみ、久しぶりに会う仲間との触れ合いを楽しみ、笑顔いっぱいで見ることができました。また、みんなで会える日をお楽しみに！



楽しかった運動会に満面の笑み



織り機を操作する目が真剣でした

子どもたちの「さおり」体験会 上阿多古小学校との交流 〜わかぎ〜

今年で3回目になった、天竜区の上阿多古小学校と支援センターわかぎのさおり（機織り）体験交流会が、10月14日に行われました。わかぎでは、作業活動として「さおり織り」を行っています。職員のお子さんがさおりをやっているのを知った、友達・学校が学習の一環として行いたいと3年前から始まった交流行事です。

当日は、利用者3名と職員が織り機を持って小学校に伺い、会場となった体育館に、8台の織り機が並べられました。3年生の子どもたちは、1年生からやっているの、慣れた手つきで

自分の好きな色合いを選び、織っていきます。わかぎの利用者も時々お話ししながら、子どもたちの作業を見つめています。作業終了後には、学校給食と一緒に食べ、交流を深めました。



ガーデニングの奉仕作業 〜三方原スクエア〜

三方原スクエアで、遠州栄光教会所属の長澤さんが、園芸のボランティアをしています。温心寮の利用者や労作の学生と一緒に少しずつ庭がきれいになり、感謝です。



— 小羊写真集 ④ —

屈託のない笑顔は、当時も今も何よりの宝物！エイジさん、コウジさん、ヒサオさんは、今もわかぎで暮らしています。42年が過ぎ、だいぶシワも増えましたが…



小羊学園のクリスマス

法人内の各施設では、左記のようにクリスマス会を行います。クリスマスのひと時を一緒にしませんか。



- 三方原スクエア
12月26日（土） 時間未定
- 支援センターわかぎ
12月16日（水） 14時〜
- つばさ静岡
12月23日（水） 時間未定
- 小羊デイケアホーム
12月24日（木） 13時〜
- マルカート
12月18日（金） 13時30分
- オリーブの樹
12月22日（火） 10時30分〜
- ぱびるす
12月25日（金） 10時〜

※詳細は各施設にお問い合わせください。

小羊学園を支える会

2009年度寄付金報告

10月受付分	286,000円	(25件)
累 計	3,284,823円	(232件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」
 郵便振替口座 00890-4-45415
 りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
 静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局（鈴木）
三方原スクエア内 ☎053-414-1833

編集後記

秋は行楽シーズン。法人内の通所3施設もそれぞれ1泊旅行に出かけました。あえて打ち合わせした訳でもないのに、3施設とも同じ日程で、マルカートとオリーブの樹に至っては、宿泊したホテルも一緒でした。翌朝の出発時にホテル前で全体写真を撮りました。助っ人として参加させていただいた私も久しぶりの仲間と楽しい時間を過ごせました。

さて、つのおえが届く頃には、そろそろアドベント（待降節）を迎える時期になるでしょう。小羊学園でも、各施設が、クランツやリースなどを手作りし、イエスさまのご誕生を心待ちにします。次号は各施設のアドベントを紹介します。お楽しみに。